

テーマ

子どもも大人も生き生きできる地育・共育活動の創造

目標

豊かな心を育み、たくましく生きる力を持った子どもの育成をめざす学校支援活動の促進と地域全体で展開する教育環境の整った美しく、安全・安心なまちづくり。

今年度の取組紹介

今年度は、警報が出るような悪天候の中、協力団体18、参加者500名を超える「防災フェスタ in 富南」を開催し、幼小中の教師、各PTA、地域とが一体となって協働する場を持ちました。中学生作成のユルキャラ「富にゃん」により幼小中の子ども



も達にも協議会の存在をアピールし、奈良ドットFMの取材もあり、ローカルではあるがマスメディアによる広報もできました。「富にゃん」は、今後地域連携の広がりやのマスコットとして活躍する予定です。



「防災フェスタ in 富南」は、地域防災意識とスキルの向上を図ることができ、継続開催が決定しています。来年度は12月開催予定です。



更に中学生、PTA、協議会のコーディネーターが、合同で「地域防災リーダー養成研修」を実施し、より地域防災の連携を深化させることができました。また提言に基づいたコミュニティルーム開設の準備も進み、事務局・コーディネーター・PTAが協働できる拠点ができました。地域のネットワークづくりを推進するとともに、防災マグネットの作成やホームページのリンクを充実させ、広報活動を活発に行いました。

今年度のまとめ

「防災フェスタ in 富南」を開催し、協力団体18、参加者500名を超える参加を得て、学校・地域が協働して防災意識を高め、訓練を充実させる取り組みができました。協議会のユルキャラ「とみにゃん」も設定され、協議会が地域に広く認知され、浸透しやすくなりました。中学生と地域とPTA合同で防災リーダー養成研修を開催し、継続開催される「防災フェスタ in 富南」の充実と実践力の育成を開始しました。地域の特色ある取組として、英語アシスタント事業に加え、ICTアシスタント事業や特別支援サポート・国際理解サポート事業が実施でき、サポート事業が広がりました。

来年度に向けて

各校園での地域人材を活用した取組は活発に行われていますが、ボランティア登録数はまだ少なく、今後地域全体として活用の交流を図るだけでなく、近隣協議会とのボランティアを共有することで、学校現場のニーズに応じたサポート体制を作ることが課題です。更に地域全体としての絆を深めていくために、防災フェスタを継続開催することで地域に根付かせ、「安全・見守りネットワーク」だけでなく多岐にわたるネットワークを構築することです。

テーマ

めざせ！つなごう！それぞれの夢！

目標

ハートフルディ・体験学習の充実を図る。
地域の人との交流を通し、地域を実感し、大人から学ぶ。
自主的に創りあげ、達成感を味わえる文化発表会・体育大会に。

今年度の取組紹介

○ キャリア教育（福祉体験・職場体験事前学習など）や栽培実習の講師、情報・英語の授業補助、特別支援講師、国際理解支援、生徒会活動の補助（コサーージュづくり）等、地域ボランティアの活用が広がり、生徒との交流も深まってきました。

○ 「防災フェスタ in 富南」に積極的に参画し、ユルキャラづくりや準備、運営まで地域の方と協働することができました。更に生徒会を中心に PTA や地域の方と共に防災リーダー研修を受け地域防災のあり方を共に学ぶことができました。幼小中学校の連携としては、職場体験、教員の小学校見学会、生徒会が主催した小学生の体験入学等を行いました。地域への感謝の気持ちをボランティア清掃や夏祭りのお手伝い、吹奏楽部・ギターマンドリン部の高齢者施設での慰問演奏や公民館の記念式典参加などを通じて表すことができました。生徒と教師が地域との関わりを実感した時間を持つことができました。



今年度のまとめ

○ 自分たちで、集会を開き、行事を創り上げ成功させて、自分たちで自主的に活動することが自信につながり、生徒会本部やリーダーの育成につながりました。

○ 福祉体験・職場体験学習・IT サポート等地域ボランティアの活用が広がり、生徒と地域の交流も深まりました。地域で学んだことは、自分たちの将来の職業を考える指針となっている。事後学習の発表会は、1年生も参加し、自分たちで工夫したプレゼンを行うことで発信力とコミュニケーション力を高められました。

○ 地域主催の「防災フェスタ in 富南」に積極的に参画し、防災意識を高めました。更に生徒会（24名）・PTA（4名）・地域（10名）・教師（8名）が共に地域防災リーダー養成研修に望みました。

来年度に向けて

・ 継続開催される「防災フェスタ in 富南」への参画を通して、中学2年生を中心に防災リーダーを育成し、地域と一緒に活動するだけでなく災害時には、戦力となり得るように取り組みます。

・ 本校生徒の課題である「コミュニケーション力」を高める取組を進めていくとともに、「豊かな心」「積極性」「規範意識」の育成を目指して、生徒自らで生徒会活動や学校行事をより練り上げます。

テーマ

いきいきワクワク富南タイム

目標

『人とふれあい地域とつながる』

地域環境を生かした体験と読書を通じた情操力の向上

今年度の取組紹介

本校はこれまで、地域の特性を生かした学習を実施することにより、豊かな人間性の育成を図ってきました。自分たちが生活する地域社会と積極的に関わり、体験活動を通して学ぶ楽しさを味わうことが、地域を愛する心やより良い生き方・考え方を身につけることができると考えています。

豊かな自然と地域の産業を児童が理解するためにチャレンジタイムを設定

5年生は地域ボランティアの協力のもと、米作りに取り組みました。校区にはまだ田畑が多く残っているが、現実には、田植えは勿論、田に入ったことのある児童はほとんどいません。

歓声(?)を上げながら、おっかなびっくりな様子の田植えの後、草取りや水やり、収穫祈願の案山子作りへと取組は進みます。その間には、ボランティアや指導の方々、近隣の農家のみなさんとの交流もあり、無事2俵の米を収穫。その米でおにぎりを作り、ボランティアや指導員の方々をお招きしての収穫祭。心の交流もできました。

今年度のまとめ

「地域環境を生かした体験活動」「読書環境の充実」「日常生活や体育イベント等を通しての自主的・持続的な体力作り」を柱に取り組みました。

どの取組でも、ボランティアの方々にご多大のご苦勞をいただきましたが、事後、どの方も「学校に来て、元気をもらった」「心地よい疲れです」等のご意見をいただいています。また、児童からも「昔遊びを教えてくれたおじさんが、今日、安全指導をしてくれたよ」「～でグランドゴルフのおばさんにあったよ」等の話を聞くことができました。

児童に自分が住む町への関心を深め、地域に生きているという意識を持たせることができました。地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくこともできました。

来年度に向けて

本年度の活動内容を深化発展させるとともに、地域の方々との絆をさらに深め、ボランティアおよびコーディネーターの人材発掘も進めていきたいと考えています。

テーマ

仲よく、楽しく、希望あふれる碓っ子

目標

子どもたちを取り巻く環境の整備・向上や地域の方々との豊富な体験活動を通して、「仲よく、楽しく、希望あふれる碓っ子」を育む。

今年度の取組紹介

学校図書館環境の充実を図り、本事業実施により期待する子ども像「自ら本を手にする子」「本物に触れた感動を大切にする子」を実現し、人間性豊かな児童を育むために、地域の方々との支援を受けながら図書室の蔵書の整理に取り組みました。今年度で3年目になる図書ボランティアの方々の活動として、データ入力・バーコードラベル貼付・貸出カード作成に引き続き今年度も取り組んでいただきました。丁寧に作業をしていただき、書棚に整然と並べられた新しいラベルの本を見ると、とても美しく、多くの手間と時間をかけてしていただいた作業に感謝しています。



また、今年度は読み聞かせへ本格的に取り組んでいただきました。図書準備室での読み聞かせは「わくわくお話タイム」というネーミングを今年付けられ、毎月2回の活動日の中休みにされています。毎回聞きに来る子どもたちの人数は違うが、聞いている子どもたちの食い入るように本を見つめる姿を見ることができ、とてもやりがいを感じられています。今後は紙芝居も取り入れていかれる予定です。

今年度から各学年の学年活動に学校評議員の方々をお招きして実施しました。子どもたちの生き生きと活動する姿を見て、「とてもすがすがしい気持ちになった」という感想をいただきました。

今年度のまとめ

豊かな人間性の育成は、本校保護者および地域の方々の強い願いです。その大きな手だてとなる読書活動推進のための図書ボランティア活動は学校教育環境の充実に多大な功績を遺しました。子どもたちは読書により親しめるよう、読書環境は順調に整備されてきています。読み聞かせの「わくわくお話タイム」を楽しみにしている子どもたちが増えてきています。

米作り体験活動は地域の方も子どもたちとの触れ合いを楽しみにされており、子どもたちも地域の方々から米にまつわる話を聞き、感心したり質問をしたりして触れ合う場面がありました。

学年活動に学校評議員の方々に参加していただき、様々な学年の教室外の姿を見ていただくことができました。

来年度に向けて

次年度以降もボランティアの方々の活動が円滑に進めていただけるよう、受け入れ体制の整備をし、学校と地域との連携をさらに深めていきたいと思っております。引き続き学年活動へ学校評議員の方々をお招きします。校内園芸環境の充実に向け取り組んでいきます。

テーマ

ぐんぐん伸びよう 笑顔いっぱいタイム

目標

ゲストティーチャーを招聘したり地域のボランティアの協力を得たりして3歳児からの体づくりを進め、活動や生活への意欲や主体的な態度を育てると共に、絵本や絵本づくりを通して豊かな心の育成を目指す。

今年度の取組紹介

- 本年度の新しい取組として、年間を通して絵本の読み聞かせに来ていただいているゲストティーチャーの指導のもと、親子絵本づくりを行いました。子どもがかいた絵の内容やその時の思いを保護者が聞き取り、言葉を書き加えながら絵本に仕上げていきました。制作途中は、子どもの思いを丁寧に聞き取ろうとする保護者や、思いを受け止めてもらえる嬉しさを感じている子どもの姿がありました。また、できあがった作品は、将来子どもの成長を振り返るものとなり、親子の愛情を感じるものとなるでしょう。後日、手作り絵本は公民館でも展示し、地域に広く園教育や子育ての楽しさを知ってもらえる機会としました。
- 体づくりを目指す食育の取組として、年間を通して野菜やイチゴなどの栽培活動を行いました。地域のボランティアの協力を得て4年前に園庭に畑を作ってから、毎年継続して行っていることから、保育計画の中に位置付き、子ども達も保護者も育てて食する喜びを感じています。年数回の交流をもつことで子ども達も親しく話しかけるようになり、ボランティアの方も子ども達の反応や成長を励みに、協力して下さっています。



今年度のまとめ

- ・ 計画的な運動遊びの実施は、保護者が我が子の体力の向上を実感できるものとなっています。また、運動のみならず、食育の取組としての栽培活動の定着も地域の教育力を実感できるものであり、ボランティアの方からも、「幼稚園に必要とされているという思いを強くしている。」という感想をいただいていることから、今後も継続した取組としていきたいと考えています。
- ・ 幼児期にこそ親子が心を通わせて活動する機会が必要であると考え、絵本づくりを実施しました。計画段階からゲストティーチャーと打ち合わせを重ね、どの親子も無理なく取り組めるようにしてきたところ、「素敵な絵本ができ、親子で作る活動は楽しかった。」5歳児の保護者からは、「3歳の時からしてほしかった。」等の感想がありました。また、事業の一端を広く地域に紹介することも、園教育の更なる理解につながると考えています。

来年度に向けて

ゲストティーチャーやボランティアによる指導は、子どものみならず、保護者や教員にとっても学ぶものが大きいです。限られた機会を効果的に日常の保育や家庭生活につなぐために、よりよい活動の在り方を共に計画段階から協議していきます。さらに、子どもの豊かな経験のためにボランティアの拡大を図ります。

テーマ

「三碓っ子 わくわくだいさくせん」

目標

園児達が様々な自然や人々とのふれあいや関わりを深めることによって、豊かな心や主体的に取り組む意欲を育て、心身ともに健康で安全な生活をする力を身につけさせる。

今年度の取組紹介

人々との触れ合いを深めるために年間を通して、幅広い年代の人たちとの出会いが生まれるように計画しました。地域の高齢者の方から子どもの頃の遊びや生活の話聞き、園児一人一人にこま回しやお手玉・折り紙を教えていただいたり、一緒におやつを食べたりしました。園児と児童・生徒達が一緒に遊び触れ合い、互いのことに興味や関心をもったり親しみを感じたりできるよう近隣の保・小・中とも連携を図り園児との交流会を年間通して実施しました。“一緒に踊ろうー沖縄に行った気分では”では、沖縄舞踊の講師を招いて保護者も共に体を動かす楽しさを感じ、“お茶会”では、園児のお手前で抹茶を保護者に飲んでいただく機会をつくりました。また、ボランティアによる“サッカー教室自由参観日”も実施しました。



未就園児保育では、地域のお話の会の協力を得て、発達や季節にあった絵本の読み聞かせを実施し、園児たちとの触れ合い観劇会・様々な行事活動や合同活動を通して幼稚園教育への理解や子育て支援につながるよう努めました。

園内外の環境を見直し、職員で畑の土を改良、ペンキ塗りや樹木の剪定等保護者とも協力し環境整備に取り組みました。

今年度のまとめ

- ・ 玄関に行事・園生活の写真を大きく貼付した“園長先生の写真屋さん”のコーナーを設置。写真を見て園児が説明したり「生き生きした表情がよくわかる」「いろいろな体験をさせてもらっているのがわかる」と次を楽しみにしていただきました。これからも園児達の育ちを感じていただける啓発の仕方を工夫していく大切さを感じました。
- ・ 年長者の方が園児の話し方や振る舞いをやさしく受け止め、温かいまなざしで認めていただいたり、未就園児と繰り返し触れあったりしたことは親近感を感じ豊かな経験となりました。「こまの回し方教えてもらったから上手に回せるようになりたい」「『ありがとうございました』ってプレゼント渡したい」等人的温かさや優しさ、感謝の気持ちを持ち、園児自らも様々な人にかかわっていかようとする力やコミュニケーションしようとする意欲につながりました。

来年度に向けて

地域の方々の教育力を生かした活動を展開する中で、園児の内面から自ら湧き出る自主性・創造性を養い、豊かな心を持ち生き生きと生活する園児を目指してきましたが、更に深めた取り組みを継続しなければならないと感じました。また、体力面・運動面での弱さも感じました。幼小連携の中で、世界遺産・歴史遺産にふれる取り組みの大切さも課題として残りました。